

二〇一七度修士論文題目

アジア史学領域

岩田 森 前秦の国家体制に関する試論

―後趙から前秦苻堅時代に至るまでの体制変遷―

畑上 幸大

陳勝・呉広の乱について

↳陳勝集団の実態にせまる↳

工藤 汰綺

『睡虎地秦簡』および『張家山漢簡「二年律令」』からみる家族関係

宮崎 大貴

漢代における兵法の学について

鶴留 由梨

清朝嘉慶期から道光期におけるアヘン政策の効果と弛禁論の検討

合田 新

蒙古の高麗侵攻と禿魯花・王緯の評価

久米 咲衣

洪武帝の目指した日明関係

中島 洋子

―「日本国王」をめぐる―

高原 萌

メフメト二世の年代記『征服王史』の叙述分析

笹尾佳久映

―コンスタンティノーブル征服を主として―

山浦なつき

オスロ合意の歴史的意義の再考

岡本 和紗

ジェンダーから見る唐代の宦官

奥野 達也

ブルーヴェの描く康熙帝像

森元 尅帆

春秋時代の覇者について

小林幸太郎

―その条件に関する一考察―

亀岡 茉由

災いをもたらす龍 ―五行思想との関係性―

格

燕下都遺跡から見る戦国時代における都市の性格

西野 真衣

張学良の蒋介石観

明清時代における中国と琉球の関係

藤本 亜弓

『真臘風土記』の叙述分析

―元の使節・周達觀の見たカンボジア―

森 修一

―商館文書からみる 17世紀の海域東南アジア―
唐から見た遣唐使

平柳 真帆

『紅樓夢』における花の描写

―「咲く」、「散る」を中心として―

佐野祐太郎

―唐側の受け入れ体制を中心に―
儒教の国教化

西岡 沙姫

植民地期朝鮮の初等教育に関する一考察

海老名拓徳

儒家思想の誕生とその背景に関する考察

第二次朝鮮教育令施行期の「国語」と「修身」

木本 勝太

唐宋時代の無頼の存在 ―一般市民と無頼

を中心として

井上 陽介

賈誼の対匈奴政策の効果とその意義

李 瑛希

壬申・丁酉倭乱における、李舜臣の統率者として

の特徴

下田 剣士

イラン石油国有化時代のアメリカの対イラン政

策

―トルーマン大統領からアイゼンハワー大統領

への政策の転換―

乾 紗良々

Tarikh-i-Rashidi に見る 16世紀中央アジアにお

ける諸王朝の婚姻政策に関する考察

木村 愛莉

ムガル朝皇位継承争いと女性たち

―シャー・ジャハーン末期を事例に―

明星つきこ

「商業の時代」における港市マカッサルとイギリ

ス東インド会社の関係